

序文

編者として序文を執筆するにあたり、埼玉医科大学の臨床工学技士(CE)による不整脈業務の立ち上げに並々ならぬご指導とご厚情を賜りました循環器内科の松本万夫先生(現埼玉医科大学国際医療センター 不整脈科)、須賀幾先生(現医療法人須賀医院 院長)、加藤律史先生(現埼玉医科大学国際医療センター 不整脈科)に厚く感謝申し上げます。そして、日本メドトロニック株式会社 故豊島健先生のご冥福をお祈りするとともに、厚く感謝申し上げます。本書の執筆にあたり、豊島先生には医用生体工学科(当時)の非常勤講師としてご担当いただいた機能的生体刺激論の講義資料を大変参考にさせていただきました。当時はその価値を理解できていなかったであろう卒業生たちが、CEとして臨床現場や企業にて活躍しております。重ねて御礼申し上げます。

さて、本書は「臨床工学技術ヴィジュアルシリーズ」の第4弾となります。我が国におけるペースメーカ植込み件数は年々増えており、臨床工学技士が果たす役割も大きくなってきております。そのようななかで、本シリーズ既刊の「血液透析」「人工呼吸」「体外循環」に次ぐ業務として「ペースメーカ」が企画されました。

正直、編者のお話を頂戴した当時は、ペースメーカにて、これまでの既刊のように写真や動画を豊富に盛り込むイメージが湧きませんでした。なぜなら、ペースメーカの機器自体は手のひらにのるほど小さいですし、また、プログラマ(見た目は前時代のワープロのよう!)をポチポチしているところ、植込み手術の医師の手技、体内での所業などはヴィジュアルにしにくいと考えたからです。

しかし、このような編者の弱気な舵取りにもかかわらず、しかも医療現場に異常状態をもたらしたコロナ禍の渦中で、埼玉医科大学附属3施設の臨床工学部門の方々にはご執筆いただき、また以前埼玉医科大学病院でCEとしてともに働いたアボットメディカルジャパン(同)の高橋克弘様に画像や動画をご提供いただいたおかげで、このたび発刊へと漕ぎ着けることができました。心より感謝申し上げます。また、編者の構想を思い描いた形に仕上げてくださった出版社の皆様にも御礼申し上げます。

本書はこれまでに類を見ないペースメーカの教科書になりました。また既刊のシリーズ本とも違った味わいがあります。本書が将来そして現在ペースメーカ領域に関わるCEの成長に役立てば幸いに存じます。しかし、不明瞭なこと、不十分なことがあれば、編者の不徳の致すところであります。是非とも出版社にご意見、ご要望などいただければ、第2版へと活かしてまいりたいと存じます。

2023年7月
埼玉医科大学 保健医療学部 臨床工学科
奥村高広